

平成 30 年度 第7回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

I. 日 時: 平成 31 年 2 月 2 日 (金) 14:00～16:00

II. 場 所: 公益社団法人 私立大学情報教育協会

II. 出席者: 片岡座長、神原委員、三浦委員、高松委員、山元委員、原島委員、二瓶委員(G)

事務局: 井端事務局長、森下 ※(G)は Glexa での参加

III. 資料

- ① ICT を活用した分野横断型の課題発見・解決型教育の提案(医療系AI対話集会報告資料)
- ② ICT 活用による分野横断型授業 学生用ガイド グループ2
- ③ 平成 30 年度 ICT 活用による分野横断型授業の結果報告
- ④ 平成 30 年度 ICT 活用による分野横断型授業のアクセス時間
- ⑤ 平成 30 年度 ICT 活用による分野横断型授業のルーブリック評価結果
- ⑥ ルーブリック評価について原島先生のコメント
- ⑦ 委員の先生にルーブリック評価のお願い
フォーラム実験小委員会の活動計画について(事務局メモ)

IV. 議事概要

1. ICT 活用による分野横断型授業の概要について

1 月 26 日(土)に行われた、「栄養・薬・医・歯・看護学」グループのアクティブ・ラーニング対話集会」での報告資料を基に今回の実験授業について、片岡座長から資料①で目的、方法、期間、授業の内容、プロブレムマップ、グループプロダクト、全体説明会までの概要が説明され、参加学生のアンケートが以下のように紹介された。

① 学生アンケート1

「多面的な視点で問題を発見することができた」が64%、「学修意欲が高まった」が82%
「問題への興味がさらに深まった」が73%、「他学部(科)の学生に説明することで自分の理解が深まった」が64%などであった。また、「他学部(科)の学生との議論は良い刺激になった」は、特にそう思うが、100%、「コミュニケーションの重要性が理解できた」が64%、「他分野との連携は必要」が64%であった。

半面、「通常の講義よりもアクティブ・ラーニングの授業形態の方が好きだ」は、やや思うが73%、とてもそう思うが9%、「自分の専門領域を他分野の学生にうまく説明できたか」は、やや思うが73%、とてもそう思うが9%に下がっている。

② 学生アンケート2

リスペクトの部分では、「他学部(科)の学生は自分にはない専門的な知識を持っているというリスペクト」が82%、「人に説明する際は十分な準備をする必要があることが理解できた」が82%、「ネット授業を通じて今の自分に必要な知識や能力を再認識することができた」が73%、「今回のネット授業を終了して充実した気持ちである」が64%などであった。

③ ネット授業を行って良かったこと

「全国各地の医療系学生と気軽に討議することができた」、「世界が広がった感じがした」、「自分の将来について現実的に考えられるようになった」、「他学部と連携する際に、患者だけではなく、他職種に対して自職種は何ができるのかを深く考えることが出来た」、などであった。

④ 多分野の学生同士とのディスカッションで感じたこと

「他の職種と共通していることが多くあり、チームでやることの大切さがわかった」、「各職業の意外な関連性が見えてとても面白かった」、「他学部の人があるような視点で患者さんや問題に向き合っているかを理解できた」、「自分にはない知識や考え方を多く学ぶことができた」、「多分野の学生がいるからこそ、様々な角度から物事を考えることができ、よりレベルの高いディスカッションを行えたと思う」などの感想が寄せられた。

- ⑤ 他学部の学生について思ったこと
「考えがしっかりしていて、それぞれめざしている職業に誇りをもっていると感じた。私も負けてられないと思ったので、刺激しあい、高めあうことの出来る存在になったと思っている」、「説明する際に、専門用語がわからない人にもわかりやすく伝えており、本人がしっかりと理解しているから出来ることであると考えた。私も彼らに見習って自職種について理解を深めようという励みになった」などの意見があった。
- ⑥ 今の自分に欠けていること、足りないこと
人に発表、説明する力、将来を見据える力、視野を広く、物事を考える力、多職種間の関連性をもたせながら考えること
- ⑦ 高学年の学生になってまたネット授業に参加してみたいか
自分がどれだけ成長できたか確認することができるため、参加してみたい、多職種が連携して、具体的事例にどのように対応していくかを話し合ってみたいと全員が回答し、時間があればという発言もあったが、どのくらい成長できたか確認するため、高学年になったら具体的な事例でやってみたいという意見が寄せられた。
- ⑧ ポートフォリオの記載
まだ詳細な解析は済んでいないが、ざっと読んで、一番包括的で分かりやすかった事例として以下の事例が紹介された。

1-グループ内でのコミュニケーション

回を重ねるごとに、よりよいコミュニケーションが実現できた。最初こそとまどいはあったものの、ネット授業であるということはメリットが大きいに思う。ビデオ通話では発言者が明瞭である(発言している人が大きく表示されるようなシステムだった)。これより、発言者はさえぎられることなく発言ができ、それ以外の人は他者の意見を聴くことに集中できる。(医学部)

2-自己主導型学修(学修成果のサマリー・説明用ファイル・引用文献・図書など)

もう少し深い学修を心がけなければならないと痛感した。自己主導型学修の課題はどれも興味深く、楽しく取り組むことができた。しかし、グループメンバーと学修内容を共有しディスカッションする段になると、自分の学修がいかに浅く表面的なものかと反省する点が多かった。単純にテーマに対する調査が不十分であることも問題だが、さらに単なる調べ物に終始してしまった感もある。十分な文献に目を通し、自ら論点を抽出するということができなかった。これは他のグループメンバーでは達成している人もおり、他者の学修を通じて自分の至らなさが明るみに出てしまったようである。しかし、そのような気づきを得られたという点では大きな学びになった。(医学部)

3-ICTを活用したグループディスカッション(シナリオの問題共有と解決策の提示)

ことわりを入れてから発言している場面が多かった。これは日々の大学での専門的な学びを、他学部の学生とも共有しようという意思の表れであるように思う。現に毎回の授業のたびに自分の知らないことをたくさん知ることができ、普段の大学での授業以上に刺激的だった。それぞれ異なる専攻の学生が議論をすることによりシナジー効果が生まれ、広く深い議論ができた。(医学部)

4-医療人としての将来の展望

一連のネット授業で医療人としての将来の展望が開けた部分もあるように思う。というのも、今までは自分の目指す職種は何をすべきか、という漠然としたことについて考えてきたが、今回は他職種との関連という具体的な役割を議論することができ、将来へのイメージが膨らんだ。ただ、実際にはさまざまな問題点も多く、必ずしも希望に満ちた未来像を描けたわけではない。しかし、そこに意識を向けることができたという点は良かったし、今後も継続して将来を見すえて考えていく必要があると感じさせられた。(医学部)

2. 今回の「ICT を活用した分野横断型授業の成果」について

今まで説明・報告した結果を踏まえて、本授業に参加した学生達は「将来が予測できない時代に社会の課題を解決していく人材として以下のことを身につけたと考えられることが報告された。

- ・ 多様性の理解と将来展望
- ・ コミュニケーション・情報リテラシーなど幅広い能力
- ・ 生涯継続性

3. 平成 30 年度 ICT 活用による分野横断型授業の総括

資料③を用いて、分野横断型授業の総括報告と次回に向けた改善策が検討された。

(1) 事前準備について

- ・ 個別面談は効果的であったが、面談の日程調整、担当の先生の負担が大きい。
- ・ 学生にの ICT 負担(PC の確保、操作)と事前課題「健康長寿社会」の負担をかけた。

改善策

- ・ 学生名簿を早く作成し、学生とファシリテーターが日程調整をしやすくするツールを活用する。
- ・ 個別面談で課題を出し、グループで練習の際に共有する。
- ・ 学生用ガイドに Glexa の使い方を作成し、ICT 活用とアイスブレーキングに集中する。
- ・ 役割分担(司会、書記など)はアイスブレーキングを兼ねてここで決めるようにする。
- ・ グループ面談の時間は 30 分程度とし、ネット授業1～4の学生用ガイドはこの時点では学生に公開しない。
- ・ 学生の登録、グループ分け、ファシリテーターと学生の調整は事務局にお願いする。
- ・ 学生が PC を所有しているか使用できる環境にあるか、募集の際に配慮する。

当日貸出等の対応では、事前、事後学修、説明会、ポートフォリオ作成に障害・支障がでる、今回、12名中2名が最終プロダクトを提出していないが、この辺の事情も考慮する必要がある。

- ・ 将来的には「個別面談」は Version2に依頼する方向で検討したい。

(2) オリエンテーションについて

オリエンテーションは約 1 時間であったが、学生の負担を軽減するため時間短縮が必要。

改善策

- ・ 30 分以内で目的、概要、進め方、評価について伝え、ネット授業2以降に関連する内容についてはファシリテーターがその都度説明するようにする。

(3) ネット授業1について

予想以上に活発な討議が行われたが、どこまでディスカッションを深めるか不明確であったため、学生の負担が大きすぎた。

改善策

- ・ ビデオ視聴を学生とファシリテーターが一緒にできるようにする。
- ・ 自己主導型学修時間を調査して、あまり無理しないように学生に話し指導する。
- ・ 授業終了時に 1 人 30 秒程度のふり返しを行う。
- ・ オリエンテーション時間を短縮し、授業の最後に次回までの自己主導型学修内容と次回のネット授業の内容について、ファシリテーターが説明を行う。
- ・ 役割分担(司会、書記など)はアイスブレーキングを兼ねて事前で決めるようにする。

(4) ネット授業2について

司会、書記 2 名、タイムキーパーは発表が終わった学生が順番に務め、自己主導型学修成果の共有については順調に終わったが、音声がよく聞こえない、プロブレママップに「健康長寿を促進すること」と「健康長寿を阻害すること」の両方を記載してい。グループプロダクト(説明用ファイル、プロブレママップ)を作成する際に、新規に作成しようとして、学生が手間取っていたなどの課題があった。

改善策

- ・事前準備の課題を自分の「苦手なこと」と「苦手になった理由」についてのプロブレムマップとして、マップには「プロブレム(問題)」を書くように指導する。
- ・グループプロダクト(説明用ファイル、プロブレムマップ)を作成する際に、最初に6名の学生が作成したプロダクトをグループプロダクトにコピーし、それをもとにグループプロダクトを作成する。
- ・授業開始前に6名の学生の音声が聞こえるか十分に確認する。
- ・ネット授業前に学生は他の学生のプロダクトに目を通すようにする。
- ・ファシリテーターは学生の提出物に事前に目を通し、議論をどうまとめるかシミュレーションを行う。

(5)学生用ガイドについて

終了時間を早くするため、どこまでディスカッションを深めるかを明確にする必要がある。

改善点

- ・時間進行が分かりやすいように、終了時間の目安を入れる。
- ・司会などがあらかじめ学生用ガイドに目を通すように指導する。
- ・議論の深さなどもどの程度まで求めているか分かりやすくする。

(6)ネット授業2以降の進め方について

- ・授業前に授業責任者、ファシリテーター、関係者間で進行確認などのブリーフミーティングを行う。
- ・反省点・改善点はメール会議を行い、必要があればブリーフミーティングを行う。
- ・委員が視聴していて気づいた点があれば随時連絡をしていただく。
- ・ファシリテーターにお願いをする。授業中の対応についてはチャット機能を活用する。
- ・20年後の自職種の未来像については、参考資料として「NHK スペシャル AI に聞いてみたどうすんのよ!? 日本健康長寿」を視聴させる。

(7)ネット授業4の進め方

- ・説明会には全学生と全教員が参加して、約50分間行う。
- ・18:20までに全学生と全教員がログインし、学生と全教員が自己紹介を行う(1人20秒以内)。
- ・18:30から各グループに分かれて説明会の事前準備(30分間)を行う。
- ・説明会后、各グループに分かれて約30分間プロダクトの修正を行う。
- ・最後に各グループでファシリテーターの指示の下、学生がふり返しを行う。
- ・ネット授業4(説明会)の前に学生だけで説明会の準備を行うための話し合いの機会を作る(ネット会議室の貸出)や質問や賛成(同意)カードを作る。

(8)ファシリテーターの養成

- ・今回の経験を活かしてファシリテーターガイドの充実を図る。
- ・実際のネット授業の動画も加えたファシリテーター養成ビデオの作成

(9)その他

- ・NHK オンデマンドの掲載が途中で切れた。
- ・ビデオ教材は掲載期間を確認し有料でも確実に視聴できるものを活用する。

(10)ICT 学修支援システム(グレкса)への要望

- ・事前練習のスケジュール調整機能
- ・グループ学生の登録機能
- ・学生への一斉メール(連絡)機能 ファシリテーターなどが活用
- ・学生へのネット会議室の貸出

(11)全体的な総括

1)役割分担

- ・学生登録、グループ分け、日程調整などは Ver2と連携して事務局に担当していただく。
→運用マニュアルを作成する。
- ・授業運営と学生評価はファシリテーターにお願いする。
→ファシリテーターガイドを充実させる。

2) 専門家の意見の反映

- ・プロダクトについての専門家の意見を集約して、ファシリテーターが学生に伝える。

3) 学生の時間的負担を考慮する。

4. ルーブリック評価について

今回の授業について、原島先生から、以下の改善点がとルーブリック評価について報告された。

※ 改善点

- ・グループ 2 は、事前準備にファシリテーターは参加しないことにしたが、事前にグループの様子や Glexa 使い方が確認できるとよかった。そのため、授業前にファシリテーターと 30 分程度のミーティングを行うこと。その際、二瓶先生、大西様も入って Glexa の使い方をグループで練習することが必要と思った。

※ ルーブリック評価について

- ・根拠となる情報の評価について、「信頼できる参考文献の記載」で、考えを説明するには文献が不足していても、数としては複数記載されており、それが信頼できる文献であれば、「レベル 3」としていいのか迷った。
- ・「傾聴」は、ビデオをあとで確認することで評価できる。
- ・「人間関係の構築」についてはネットに接続できずディスカッションに参加できなかったり、開始時間に遅れて参加した学生があったので評価が難しく感じた。司会者の役割を担った時の様子が参考になると思うが、その時のテーマの難易度にもよると思った。
- ・「自己評価」は、「他者からの評価を参考に適切な振り返り」の部分が今回の授業の中では出来なかったこと、未提出の学生がいたこと、記載の仕方の統一など、今後の工夫が必要と思った。

※ その他

- ・グループ 2 では、ネット授業 4 の開始時間が、ネット授業 3 で説明した時間と異なっていたため、2名の学生が遅刻したと、開始時間などの変更を参加者にしっかり伝える必要がある。
- ・ビデオは評価に大変役立ったが、参加者一覧のみの画像で、実際の作業の様子が確認できない、2画面あると良い。
- ・ノートパソコンでは、画面が小さく、参加者一覧、作業画面、チャットの確認が大変、複数の PC で確認しながら評価できるなど、ファシリテータの PC 環境についても工夫が必要と思った。

※ 今後の検討事項

1. 参考文献の信頼度、文献数、玉石混合の場合など基準については、別に作成してくか今後検討する。
2. ディスカッション、自己評価に関するルーブリック評価は、毎回の授業のピア評価などで他のメンバーの考え・評価なども参考に振り替えりなどピア評価の併用なども今後検討する。
3. 開始時間の変更など、スケジュールの調整、一斉連絡とか急な連絡の方法などについても可能性を検討する必要がある。
※ 一斉連絡については、学生の授業メール、携帯電話など複数に連絡する方法などを検討する。
4. ファシリテータの PC 環境については、PC2 台の接続で見やすくすることを検討する。

5. ルーブリック評価のお願いについて

ルーブリックの評価について、改善していくため、可能な部分について、実際プロダクトを見て、」委員の先生に実際の評価をお願いすることについて、二瓶先生から⑦の資料で説明が行われた。

- ・資料⑦の URL にグループごとの評価のフォームを作成し、学生ごとにルーブリック評価表を付けているので評価をしていただければと思います。

- ① Glexa に入って各グループの提出物、グループプロダクトを見て評価をお願いしたい。

- ② 自己学修のプロダクツは、それぞれの学生の名前で分かれているので確認いただきたい。
- ③ 授業の内容は、各授業のビデオが、ネット授業・報告用に」掲載されているので実際の動画として見られます。
- ④ 詳細は改めてご連絡しますが2月いっぱいくらいを目途にお願いしたいと思います。その上で3月にこのルーブリックを入れた最終的な総括をしたいと思います。

6. 主な意見

- ・ 学生のレポートはよく出来ていたと思うのが、何をその学生がやったか、何を参照したか、参考文献、教科書、専門書、URLなどをすべて書き出し、提出させたほうが良いのではないかな。
- ・ 学生の議論が議論になっていないと感じた。答弁みたいなやり取りでなくちゃんと議論させることをチューターも含めて考えないと、ディープラーニングに入っていっていない。
- ・ 1回目から上手くやるのは不可能だと思う。他の学部の学生とこのようなディスカッションを行う機会はないので何回か回数を重ねないと無理だと思う。
- ・ 最後の「自職種の20年後何する」というところで議論し、一緒にこれが出来るのではないかな、医学部もやっているし、これは栄養もやっているでは一緒に何かやり方ないですかねとかいうところで深まるのではないかな。
- ・ 2年生は第1段階なので、4回目の授業で噛み合った話がちゃんとできれば良いと思うが、さっき言ったネット会議室を用意しフリートキングできることを考える必要がある。
- ・ 第1段階の1回目からうまくいくことは難しいが、最後の4回目辺りでしっかり噛み合った討議が出来ていれば一応OKではないかな。第2段階では最初から噛み合ってくるのではないかな。
- ・ 各授業段階のアウトカムがはっきりしていればもう少し深まった議論が出来たのではないかな、時間が無いからということでできていないのがちょっと残念に思う。1回目だというのはよく分かるが改善していくべきと思う。
- ・ 学生に対する要望としては、将来に対する提言が無かったのは残念で、アンケートの中にも。将来像を描けたかという項目が入っていない。将来どう考えるかがちょっと希薄だった。
- ・ 資料1の最後のページにあるようにポートフォリオの中に、医療人としての将来の展望として皆書いている。十分ではないが、学生が少しそういう事を考え始めたということは成功ではないかな。
- ・ いろいろ改善点があるが、初めてのこの4回の授業でそこまではできないので、今後の課題として取り組んでいきたい。
- ・ ミュレーションをして、こういう展開でどう落としこんでいくかまで煮詰まっていなかったが、今回やってうまくいかなかった部分、これをさけるためにどうするか、ここでこう言っておけばよかったとか、などを取りまとめ今後の改善に結び付けたい。
- ・ ファシリテータは、今回は口を出さないことにしたが、入るタイミングは非常に難しものの方向性の軌道修正などの指導が大事ではないかなと思った。
- ・ 大事なことは議論をするといっている議論できていなかったこと。今回の狙いは議論をさせて、そこから新しい知を自分たちで気づいて皆で作っていかうということに目標があったので、そこが十分でなかったことで、1回目ですでとは思わないが、そういう仕組みをしっかり作っていかなかったことは反省しなければいけない。
- ・ その仕組みの中で大事なことは2つあり、ビデオ視聴をさせて、自己学修、これはそれなりに意味があるし、文献もネットで調べることも意味がある。ただ問題は、自分の考えている事を皆の前で言ってみて初めて自分がどのくらい理解しているかを鏡みたいに跳ね返りをさせて学修をさせる事である。司会者の力量で進められてしまったので、そこを何とか考えなければいけない。もう一つは、専門家の意見が反映されなかったことで、勉強してきたことに専門家の意見が聞けることを考える必要がある。
- ・ 先ほどの改善点の中にある、ネット会議室を用意し、学生が自主的に運営して、そこで自分た

ちで自己学修、グループ学修できる仕掛けを次のステップとして考えて行かないと時間が足りないから、ぎゅうぎゅう詰めのスケジュールで消化不良になる。そういう意味では今回の学生は頑張ったと思う。次のステップは、そういう仕掛けをしっかりと作る必要がある。

- ・ そうすれば専門家の突っ込みも、もうちょっといろいろサゼッションできると思う。
- ・ 今回、可能であれば、ループリック評価していただくところで、コメントとして、ここではこういう事を言えばより良くなったということを入れておいていただければ、ファシリテータガイドに今度それ入れたい。ファシリテータガイドにこういう状態だったらこういう事を少し言ってくださいということを入れておけば、エキスパートでなくてもちゃんとファシリテイト出来るというふうに思う。
- ・ ファシリテータ用の引きだして作っておいて、そこに先生方の意見をいれてもらうイメージ。
- ・ ファシリテータ、専門家、委員の先生など外野の大人たちの世界で、学生のグループの議論聞いてきたけど、ちょっと肝心なことをちょっとと言ってみよう、これをあとで学生に見てもらう。そうすることで振り返りを促す、ちょっと論理的な思考が足りないのではないか、もっと批判的に捉えてもいいのではないかとかそういうフォーラムみたいな部屋を作っておくと良い。
- ・ 学生に主体性を持たせ、それで大人がどう考えているか、専門家はどう考えているのか。われわれの学びに対して足りているのか足りないのか、どういう事をやらないといけないのか、そういう示唆が得られるネット上の部屋を用意する必要がある。
- ・ それはいい事ですね。その日が終わった後にそれを公開すると本当に良いと思う。チャットで打ったものを公開でも構わないと思うのが、技術的に可能か
- ・ ビデオでも文字でも良いが、いろいろな意見が出たのを、どこか別のところに置いておいて学生たちが前回の授業を振り返り、参考になることが見られるようにしておく。
- ・ どうやるかは今後の検討だがそれは可能だと思う。
- ・ そうすれば、ファシリテータの負荷がずいぶん軽くなる。全部ファシリテータに責任が行ってしまうので周りで助けられないといけない。
- ・ 今後の計画のところになるが、今度やるとしたら3グループ、最後の説明会も3グループくらいあったほうが良いと思う。
- ・ なるべく同時にやったほうがいい。月曜日のグループ、火曜日のグループ、水曜日のグループなどで実施することが考えられるが、が毎日毎日2時間半も聞いているのは大変で、ビデオで覗いても難しい。
- ・ 現実的なのは、今回ループリック評価付けてもらう時にいろいろコメントやサゼッションをいただき、ファシリテータガイドに反映し、手分けして取り組むことが現実的かもしれない。
- ・ そういう意味では、分担してこれをやらないと限られた先生では無理でパンクしてしまう。せいぜい週1回くらいにしないと続かない。
- ・ 何しろこれを、もう1回来年度やる時には、そういう今のような視点を払拭したい。払拭した上で、その学びのいわゆる、学びの仕方、標準的な汎用マニュアルを作りたい。それは医療系だけでなくすべての分野にも使えるものにしていきたい。そういう意味で、もう少し改善を重ねて、一番の問題は、担当する先生方の負担と労働量をどうやって分散するかということを真剣に考えないといけない。そうしないと空中分解してしまう。
- ・ 今回2グループ目は毎週やったが、調べる時間も非常にきついし、学生にネット会議室を用意し、学生が自主的に運営してやるとなったら、学生もたぶん、今の学生忙しいですから、そんな調整はなかなかできない。そうすると2週に1回くらいにしてやるくらいが限度ではないか。
- ・ 学生同士のグループ学修が出来れば、自分の意見のポイントは何かというのを絞ってからその授業に望める。その段階があったら、ちゃんと噛み合い、授業に臨むときは、自分の考え、ポイントを絞って、これ確実に持ってから出るというようにできるかと思う。
- ・ 学生の負荷はどうか何かアンケート取っていますか。もうやりたくないとか、もう大変だったとか。
- ・ ①の資料の学生アンケート結果で、15番の今回のネット授業で自分が興味深いと思ったことに、さらに学修しようと心がけたいと思うというのは、これとてもそう思うが45、ややそう思う55でもうこ

れて精いっぱいみたいな完全に疲れた感じが出ている。

- ・グループ1の学生から最初のグループの事前準備のところが終わった段階で、こんな負荷には耐えられないと連絡があった。可能な範囲でやってくださいと伝え、やってくれたが、最後の説明用ファイルやプロダクトは出していなかったと思う。
- ・そうするとパーセンテージとしては、ちょっと看過できない。少なくとも、そういうのがあってもまあ良かったなというウエイトのほうが高ければ、そういう声をセーブできるはずなのだけど、やはりそれがパンと出て来てしまうということは、やはり何か少しそこのところ、何かもうちょっと工夫できないかなという。
- ・半面、13番の今の自分に必要な知識や能力を再認識できた、これはとても大事なことなので、これはよかったなど。それから16番のちゃんと準備しなければいけないということがよく分かったなどは2年生にとっては大きな財産を得たのではないかなと思う。この体験が3年生、4年生の時には花開いて行くと思う。
- ・資料④のアクセス時間見ていただくと、1回の授業に平均4時間から最大17時間かけていることから大学の勉強がかなり大変な中でかなりの時間数を当てている。アクセス時間以外に本読んだりしている時間も加えるとやる学生はこれだけではなかったかもしれない。
- ・本当はやはり単位あげるとか考えなければいけない。単位とか、大学で何かをこうやるということを考えないと、今回はあくまでもボランティアだからちょっとかわいそう。
- ・大学が単位を出すのは難しいので、こういう団体として、何か修了証とか、業績としてカウントできるような何かを出してあげられないかなと思う。
- ・私情協として、修了者には何か、他の学生たちよりもこういう点で優れているということを、社会に対して、そういう学びについての保証が出来るのではないかな。それは私情協としてやっていかなければいけない。
- ・今からでもやろうと思えばできる。個人的に、少しルーブリックを評価してあげるという作業がありますが、それを見た上で、その上で、どういう視点で、どういう観点の能力を身につけたか、そのところを分析して、それをWebに載せてあげて、それで修了証を送ってあげることはできる。
- ・まずは個人にフィードバックして、それをやる。3月までにその作業をやるのがせめてもの学生に対するわれわれのリスペクトであり、責任ではないかなと思う。
- ・私情協として、この多職種連携授業に出た学生は、こういう点で秀でたコンピテンシーを持ち合わせていることを証明しますと本当は言ってあげたい。
- ・ルーブリックいくつ以上とかはやらない方が良く、コンピテンシーとは言えないかもしれないが全員に受講修了証みたいな感じで出せばよいのではないかな。
- ・多職種連携授業を修了した終了証を委員会として出すこと、ルーブリックの票以下を個人に返すことに倫理規定で問題はない。
- ・「社会スタディ」を2月にやるが、学びの成果レポートを提出した学生のレポートを委員会で審査して、終了証、優秀証をだしている。本当に素晴らしい学生は優秀証をだして学長に報告するようにしている。
- ・同じようにやっておけば、学生に少し、元気を持たせられるのではないかな。きつい学びを乗り越えてもらうため、単位はあげられないが外部の評価はあげられるのではないかな。
- ・3月に、委員のルーブリック評価をいただいた段階で今年度の修了証と優秀証をきめて送ることにしてはどうか。3月にもう1回委員会を開いて、その場で決めさせていただいて年度内にお送りするというようにしたい。

7. 次年度の進め方について

事務局から資料(メモ)をもとに次年度の活動計画について以下の内容を説明した。

- (1) 本年度の結果を踏まえて体験した課題、とりわけファシリテータの役割・支援の仕方、グループ討論の仕方やグループ間における討論の仕方などの洗い出しを行い、改善策を取りまとめる。
- (2) 上記の改善策を踏まえ、より汎用性を持った「ネット上の分野横断型フォーラム授業」の実験を行うとともに、実験を通じて得た体験を「授業運営マニュアル」として作成する。
- (3) 作成した「授業運営マニュアル」を広く公表し、意欲のある大学・教員が導入・実施できるように支援する。

(4) スケジュール(案)

- 3月 本年度の結果を踏まえて課題の洗い出しと改善策を取りまとめる
- 5月 などのファシリテータの役割・支援の仕方、グループ内での討論の仕方などの改善策を踏まえた第2次実験を設計する
- 6月 第2次実験の参加者募集と事前準備
- 9月 第2次実験授業の実施
- 12月 第2次実験授業を踏まえて「ICTを活用した分野連携授業運営マニュアル」を作成し、意欲のある大学が導入できるよう「実施授業運営マニュアル」を公表する。

主な意見

次の実験授業は改善した内容でやりたいこと、改善した内容を他の分野でも使えるような授業にすべく授業運営マニュアルとして、多職種連携でも分野横断型学修での「ネット授業マニュアル」として使えるようにしたいこと、そのために今回の学生向けガイドを活用することに反対はなかったが次年度に改善した実験を行うには、準備期間、学生募集など多くの課題と時間的に厳しいことが指摘され、次年度1年間は準備段階として、仕掛け作りの研究に充て、再来年に実験に望むとことになった。

- ・ 実験環境がちゃんと整わないのに、実験を先にやってしまうとまた同じようなことを繰り返すことになるので、成果の解析をしっかりとって次に進んだ方が良い。
- ・ 記憶は飛んでいくが、30年度の内容を振り返って、マニュアルを完成させ、31年度に向けた実験として、今度は高学年対象に、そのための学生の確保をやっておくとかのやり方はある。
- ・ 確かに高学年をやる必要がある。一通りやってみることは必要だとおもう。
- ・ 第一段階だけで煮詰めても繋がらないので、第二段階考えながら直していくほうが良い。
- ・ 今日の結論は、1年実験は休む、が研究は続け、次年度の第二段階を含めた次の準備をする。
- ・ 次年度3チームでの実験も考え、協力いただける委員を増やすことを考える。
- ・ 参加証と優秀証などの条件も整え、学生の公募についても検討する。

8. 次回の日程

3月28日(木)14:00とした。